

令和 5 年 5 月 19 日現在

機関番号：12501

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2020～2022

課題番号：20K23126

研究課題名(和文)保健師の組織マネジメント役割行動指針を活用したピア・ラーニング・プログラムの作成

研究課題名(英文)Creation of a peer learning program using the organization management role action guidelines for public health nurses

研究代表者

杉田 由加里 (Sugita, Yukari)

千葉大学・大学院看護学研究院・准教授

研究者番号：50344974

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は自治体保健師の組織マネジメントに関する役割行動指針を活用したピア・ラーニング・プログラムを作成することであった。約半年間の本プログラムは4回の集合研修と自己課題に取り組む実践を組み合わせ、県保健師3人と市保健師5人の2グループで実施した。本プログラムは、学習者・学習支援者として「有用である」と全員が回答したこと等から、管理期保健師の組織マネジメント能力向上に、おおむね有効であると考えられる。

研究成果の学術的意義や社会的意義

組織マネジメントに関する役割行動指針を活用した本プログラムは、コンピテンシーベースドラーニングに関する先行研究では十分に明らかにされておらず新規性を有し、現在、多くの自治体等で実施されている管理期保健師対象の研修に活用できると考えられる。また、協働学習の中でも看護の実践者のピアの関係を活用した学習方法に関する研究は緒に着いたばかりであり、成人学習理論を基盤とした学習への応用可能性があると考えられる。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study was to create and evaluate a peer-learning program that utilizes the role-action guidelines for organizational management of administrative public health nurses. The approximately half-year program combined four group training sessions and the practice of tackling self-issues. Two groups of three prefectural public health nurses and five city public health nurses participated. All participants answered that this program was "useful" as learners and learning supporters. Therefore, this program is generally effective in improving organizational management skills of administrative public health nurses.

研究分野：地域看護学

キーワード：自治体保健師 管理期 組織マネジメント コンピテンシー 学習プログラム ピア・ラーニング リフレクション 行動指針

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

厚生労働省は2016年3月に、「保健師に係る研修のあり方等に関する検討会最終とりまとめ～自治体保健師の人材育成体制構築の推進に向けて～」(以下、最終とりまとめ)¹⁾の中で、自治体保健師の標準的なキャリアラダーを提示し、自治体保健師の人材育成に関し組織的な取り組みの推進を期待している。この標準的なキャリアラダーでは、管理期保健師を「係長級への準備段階」「係長級」「課長級」「部局長級」の4つにわけ、それぞれごとに、1.政策策定と評価、2.危機管理、3.人事管理に関する能力をマトリクス表の形式で提示している。この最終とりまとめを受けて、各都道府県では保健師の人材育成の再構築が進んでいる。

自治体保健師が実践を展開する中で、スタッフとしての立場からやがて、「係長級への準備段階」となり、それまでのスタッフにはなかった、1つの小集団をマネジメントする立場になっていく。このマネジメントは業績の向上と人材育成の両輪を常に考慮するという組織のマネジメント²⁾であると考えられ、小集団のパフォーマンスを向上させるうえで重要な影響を及ぼす²⁾。しかし、この組織のマネジメントをする管理期保健師は、どのような役割を期待され、どのような基準をもとに行動していくべきかといった行動の指針となる知見は明確にされてきていなかった。

そこで、筆者らは、自治体保健師の組織のマネジメントに関する役割行動指針(以下、役割行動指針)が必要と考え、作成してきている^{3,4)}。役割行動指針は12項目の役割の関係性を示す図と、役割ごとにコンピテンシーを示す役割行動³⁵項目を示した表より構成される。業務管理と人材育成・管理の遂行を実施するには、スタッフの育成だけでなく、管理期保健師としての自身の学習の継続と言語化できる能力が必要であることが内包されている。

成人学習者である自治体保健師は経験から多くを学習し、プロフェッショナルとして成長している⁵⁾。マネジメントに関する経験を活用し学習していく力である、リフレクション・エンジョイメント・ストレッチ⁶⁾を意識し、さらにグループでの学習において、同じような立場の仲間(ピア)とともに支え合いながら関わりを持ち、学習者としてまた、学習支援者としての知識やスキルを身に付けていくピア・ラーニング⁷⁾を用いた学習方法が有効ではないかと考えた。

2. 研究の目的

本研究の目的は、自治体保健師の組織マネジメントに関する役割行動指針を活用したピア・ラーニング・プログラムを作成することとした。

本研究の問いとして、役割行動指針から管理期保健師としての学習ニーズを明確にできるか、明確にした学習ニーズの改善に向けた学習プログラムにおけるピア・ラーニングは有効か、を設定した。

3. 研究の方法

本研究班は筆者のほかに、研究協力者として大学教員2名、自治体において管理的立場の経験を有する保健師3名の計6名より構成した。初年度(2020年度)にピア・ラーニング・プログラム案を作成し、翌年度(2021年度)にピア・ラーニング・プログラム案を試行し、評価に取組み、2022年度にピア・ラーニング・プログラムの事後評価を実施した。

(1) 自治体保健師の組織マネジメントに関する役割行動指針を活用したピア・ラーニング・プログラム案の作成(2020年度)

看護実践者のコンピテンシーの開発・向上における効果的な学習方法に関する文献検討

看護実践者のコンピテンシーの開発・向上における効果的な学習方法について、和文献4件、洋文献5件を選定し、コンピテンシーの定義と具体的内容、学習方法と評価方法について整理した。結果から、看護実践者のコンピテンシーの開発・向上に向けた学習において、学習するコンピテンシーを明確にし、そのコンピテンシーを学習する時間を設け、さらに実践経験を教材にしたリフレクションを取り入れた複数回にわたるグループ演習を組むことの有用性が示唆され、本学習プログラムの構成に活用できる知見を得た。

ピア・ラーニング・プログラム案の作成

上記の文献検討を参考としながら、研究班で案を作成し、教育工学の専門家より助言を受け、内容を洗練し、「保健師の組織マネジメント能力向上に向けた学習ガイド」を作成した。

(2) ピア・ラーニング・プログラムの試行と評価(2021年度)

約半年間の学習プログラムは記述式の学習ツールを活用し、4回のピア・ラーニングを用いた集合研修と自己課題に取り組む実践を組み合わせた。機縁法により参加者を募り、県保健師3人と市保健師5人の2グループで実施した。学習プログラム前後に、独自に作成した役割行動指針を用いた質問紙調査と保健師コンピテンシー尺度⁸⁾のうち3つの尺度の質問紙調査を実施した。さらに、学習プログラム終了時に、組織マネジメント能力を向上するうえでの行動目標の達成、リフレクションやピア・ラーニングの有用性等について個別の半構造的インタビューを実施した。質問紙調査は項目ごとに記述統計量を求め、インタビューデータは逐語録を作成し、意味内容を

損ねないように短文に整理し個別に分析した。

(3) ピア・ラーニング・プログラムの事後評価（2022年度）

学習プログラムの終了時に今後の行動目標を設定した（2021年度）。学習プログラム終了3か月後（2022年度）に行動目標の達成状況、学習者・学習支援者としての行動等について個別の半構造的インタビューを実施した。逐語録から行動目標の達成状況、リフレクションの活用、学習者・学習支援者としての行動について、意味を損ねないように短文に整理し、項目ごとに内容を検討した。

4. 研究成果

(1) ピア・ラーニング・プログラム実施直後の評価結果

参加者の保健師経験年数は平均25.5年、管理期としては1～10年の経験を有していた。役割行動指針は、5人が「スタッフが成功体験できる場の設定」の実施度で2段階の向上が見られた。保健師コンピテンシー尺度の公衆衛生基本活動遂行尺度（最大60点）と保健師の専門性発展力尺度（最大80点）は中央値が7点、省察的実践力尺度（最大36点）は3点向上した。行動目標の達成に関しては、「一部できた」が2人、「できた」が6人であった。リフレクションは、「文字にすることで自分の行動を意味付け、周りの反応や与えた影響で効果をみて、また自分へ跳ね返ってくることを感じ取れるようになった」等、全員が役立ったという意見であった。ピア・ラーニングに関しては、学習者・学習支援者として「有用である」と全員が回答した。普段の業務への波及効果は、6人がプラスになったと認識していた。

作成したピア・ラーニングを用いた学習プログラムは管理期保健師の組織マネジメント能力向上に、おおむね有効であると考えられる。学習プログラムには、所属を考慮した5人程度のグループ編成、役割行動指針のようなあるべき姿を示した包括的なコンピテンシーモデルを参考に自己評価し、行動目標を設定すること、リフレクションを促す学習ツール、事前課題を持ち寄り全員が発言できる相互支援・激励の場が必要と示唆された。

(2) ピア・ラーニング・プログラムの事後評価

県保健師は全員が異動していたが、市保健師は全員、異動はなかった。行動目標に関してはほぼ達成できたが3人、5人は達成途上であった。リフレクションに関しては全員が継続しており、「日々の出来事を大学ノートに書きリフレクションを毎日実施した。リーダーシップの発揮にはスタッフからの的確なフォローアップがあることに気づいた」等、4人が教訓を捉え、残り4人は難しいと感じていた。「同じような立場の職員との会話にリフレクションを挟み込む」等、自分の学習を促進する新たな行動を5人が実施していた。また、「スタッフの現状を捉えるために巡回し声掛けする」等、全員が学習支援者としての行動をしていた。

立案した行動目標への取り組みやリフレクションは全員が継続していたが、達成できた実感や教訓を得ることができた人は限定的であった。異動を想定しての目標設定や教訓を得られるためのフィードバックの機会の確保という環境づくりの工夫が必要と考えられた。

<引用文献>

- 1) 厚生労働省：保健師に係る研修のあり方等に関する検討会最終とりまとめ、<https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi2/0000119166.html>（2023.5.18access）
- 2) 伊丹敬之ほか：組織のマネジメント，経営学入門第3版，日本経済新聞出版社，P238-260，2003．
- 3) 杉田由加里ほか：自治体のミドルマネジャー保健師の役割行動指針案の作成．第6回日本公衆衛生看護学会学術集会講演集，P206，2018．
- 4) 杉田由加里ほか：自治体のミドルマネジャー保健師の役割行動指針の実用性の検討．日本看護科学学会学術集会講演集38[054-1]，2018．
- 5) 岡本玲子：松尾睦（編）医療プロフェッショナルの経験学習，同文館出版，P29-48，2018．
- 6) 松尾睦：職場が生きる人が育つ「経験学習」入門，ダイヤモンド社，P20-23，2011．
- 7) 中谷素之ほか：ピア・ラーニング 学びあいの心理学，金子書房，P223-225，2013．
- 8) 岡本玲子ほか：保健師のコンピテンシー尺度，<http://www.phnspc.umin.jp/program.html>（2023.5.18access）．

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計6件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

| |
|--|
| 1. 発表者名 杉田由加里, 米増直美, 田中美延里, 渡部恵子, 石田美由紀, 彦根倫子 |
| 2. 発表標題 管理期保健師の組織マネジメントに関する行動目標の達成につながるリフレクションの様相 |
| 3. 学会等名 日本地域看護学会第25回学術集会 |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 杉田由加里, 米増直美, 田中美延里, 渡部恵子, 石田美由紀 |
| 2. 発表標題 管理期保健師の組織マネジメント能力向上に向けたピア・ラーニングを用いた学習プログラムの評価 |
| 3. 学会等名 第43回日本看護科学学会学術集会 |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 杉田由加里, 米増直美, 田中美延里, 渡部恵子, 石田美由紀, 彦根倫子, 上原たみ子 |
| 2. 発表標題 コロナ禍における管理期保健師の組織マネジメントの実態と課題 |
| 3. 学会等名 第11回日本公衆衛生看護学会学術集会 |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 杉田由加里, 米増直美, 田中美延里, 渡部恵子, 石田美由紀, 彦根倫子 |
| 2. 発表標題 管理期保健師の組織マネジメント能力向上に向けた学習プログラムの事後評価 |
| 3. 学会等名 第11回日本公衆衛生看護学会学術集会 |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 杉田由加里, 米増直美, 田中美延里, 彦根倫子, 渡部恵子, 石田美由紀 |
| 2. 発表標題 管理期保健師の人材育成の実態と課題 |
| 3. 学会等名 日本地域看護学会第24回学術集会 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 杉田由加里, 田中美延里, 松下光子 |
| 2. 発表標題 看護実践者のコンピテンシーの開発・向上における効果的な学習方法に関する文献検討 |
| 3. 学会等名 第40回日本看護科学学会学術集会 |
| 4. 発表年 2020年 |

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

| 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|---------------------------|-----------------------|----|
| | | |

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
|---------|---------|
| | |